

国 経 研 だ よ り

神奈川大学 国際経営研究所
〒259-1293 平塚市土屋 2946
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
TEL 0463-59-4111 (内線 2200)

未 来 を 創 る

行 川 一 郎

「さまざまなこと思ひ出す桜かな」(芭蕉)

キャンパスのサッカーコート脇は桜のトンネルだ。桜の季節に思い出を語る大人と違い、若者にとって桜は未来への扉から射す光を感じさせるものではないだろうか。

桜咲く春。今年も幼稚園から大学まで新学期がスタートした。神奈川大学にも多くの新入生が入学したが、早々に就職ガイダンスを受けるなど、大学のサポートもかつてとは様変わりした。思えば昔も今も私たちは幼い頃から「大人になったら？」と尋ねられ続けてきた。大学生活の次の人生シーンが社会人(あるいは就職)というライフサイクルの中で、今後への準備を尽くしどのようにマッチングさせていくか、自身をブラッシュアップしていくか、若者はしっかりと考え取り組んでほしいものだ。羅針盤の針をしっかりと見て人生の行き先を見定めて舵を切り航路を切り拓いていく努力は絶対に必要だ。

そのために大学教育が資するものは、と問えばいくら紙幅があっても足りないだろう。これでもかとかばかりに押し込むだけの詰め込み教育や迷走に終わったゆとり教育にしても当初は善から出発している。が、教える側と教わる側の思いが通じあわないとその成果は結実しないという事態を到来させてしまった。であるならば若者の堅固な将来形成を確実にするために今後の大学教育の役割は更に重要になってきていると言う事実は言を俟たない。

将来を固めるための教育、と書いたが、さて将来

と未来の違いは何か？英語では両方とも future。辞書を繰ってみると、現在とつながっている近未来が将来で時間軸の彼方にあるのが未来という違いがあるようだ。そう理解すると若者の将来を形づくるのが「教育」である、と改めて確認、得心できよう。

そして彼ら彼女らの未来を創っていくのが「研究」なのである。未だ解明されていない事実を究明し、新しい発見を追求するのは理系文系問わず目指すところである。成果をあげるための鍵だが、よく言われることとして枠に囚われない柔軟な発想と行動が重要である。

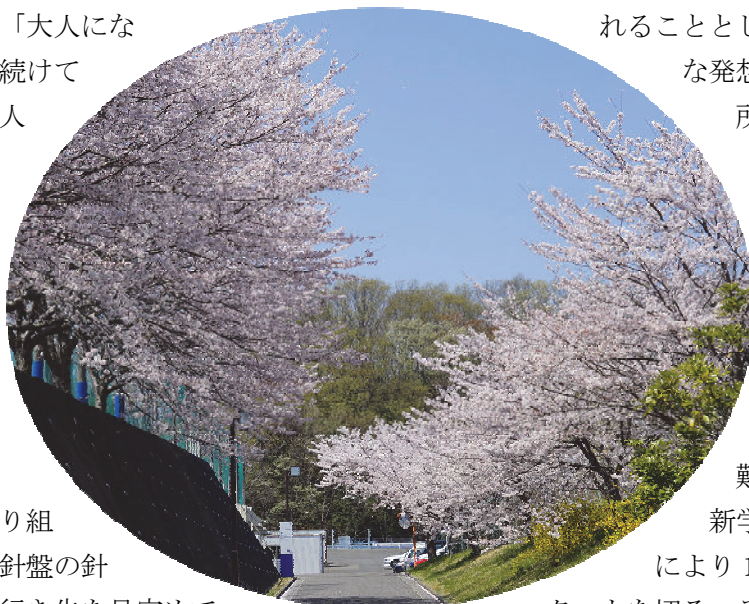
所員の方々の伸びやかな研究こそ最も大事なことであり、研究所としても微力ながら支援していきたい。

されども、思い込みや拘泥に左右されない発想は実は結構、難しいものだ。たとえば新学期といっても、実は国により 10 月、1 月など様々なスタートを切る。それに、南北に 3,000km

もある日本で 4 月に全国一斉に桜が開花するわけでもない。だが私たちは 春—桜—四月—新学期 と思い込みがちだ。例は枚挙に暇ないが、一面的な視点に囚われず、健全な知見と深い知識で研究にあたっていくという困難な使命が研究者には託されている。

研究者は、否、研究者こそ未来を創っていかねばならない。柔軟な思考のもと、所員の方々には心新たに邁進のほど、よろしくお願い申し上げます。

(所長／なめかわ・いちろう)



写真「キャンパスの四季」www.sci.kanagawa-u.ac.jp/fourseason を発信の松本正勝神大理学部名誉教授からご提供頂きました。お礼申し上げます。

2015 年度における国際経営研究所の活動について

■主な事業活動

出版活動 『国際経営フォーラム』の刊行
Project Paper の刊行 他
研究活動 各種共同研究プロジェクト支援
公開講演会 2 回以上の講演会開催を予定
今年度も“**アジア**”がキーワード！
地域連携 平塚市との協働事業を推進
広報活動 アクティビティを HP で発信
『国経研だより』で繊細な PR
※今年度も多くの新規共同研究プロジェクト
申請がありました。詳細は次号に掲載します。

■研究所所員構成および常任委員業務

3 名の常任委員（新任はゴシック）が交代しました。
所 長 行川一郎（再任） 〈地域連携事業担当〉
常任委員（4 名）
小島大徳 〈出版『国際経営フォーラム』〉
関 真彦 〈出版「国経研だより」〉
高城 玲 〈研究会 講演会・シンポジウム〉
山崎友彰 〈広 報 ホームページ〉
所員(専任) 46 名
特 任 教 員 6 名
客員研究員 13 名



2015年度着任した新任の先生をご紹介します。
今年度は新たに、望月耕太助教と Arman Hadi
Abdul Manaf 外国人特任教授が加わりました。

2014 年度活動報告（追加掲載）

- 出版活動：共同研究成果報告書(プロジェクトペーパー)
 - ・ プロジェクトペーパー 31 号 2015. 3. 31 刊
『近代社会を捉える視座』 後藤 伸（代表）
萩原富夫(客員研究員)、吉田 隆(客員研究員)
 - ・ プロジェクトペーパー 32 号 2015. 3. 31 刊
『グローバル社会に対応するレベル別大学英語教育システムと外資企業』
白石万紀子（代表）、関 真彦（所員）
 - ・ SME 研究センター報告書 2015. 3. 31 刊
『中小企業の海外戦略』
田中則仁（代表）、田中美和（客員研究員）
- 出版活動：機関誌 国際経営フォーラム
『国際経営フォーラム』No.25 2015. 1. 31 刊
特集テーマ：地域の新視点
- 地域連携・交流事業活動：各種後援、協力
 - ・ 平塚市産業活性化セミナー(第 7 回) 後援
「平塚市ビジネスケースプロジェクト報告」2015. 1. 26
 - ・ 平塚市産業活性化セミナー(第 8 回) 後援
「海洋分野での研究等を通じた大学と企業との連携を模索する」 2015. 3. 23
 - ・ 《湘南ひらつかテクノフェア 2014》出展への
(平塚市産業振興課) 協力 2014.10.22～24
- 公開講演会開催 2014.12.18(一部既載)
「アジアの中の日本 ― ICT がもたらすパラダイムシフト」
(株)ジュピターテレコム 大山俊介氏（客員研究員）

ご案内

神奈川大学国際経営研究所で 26 年間にわたって
勤務されていた川崎和佳子さんが昨年度で退職さ
れました。研究所の業務一筋に精勤してい
ただいた川崎さんに所員一同、心から感
謝しています。



煩雑な業務と多様な所員をサポートし
ていただき、厚く御礼を申し上げます。

~~~~~

なお、研究所では新たに寺本由紀子職員が執務  
にあたっています。関係各位には、今後ともよろ  
しくお願いします。(行川)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 編集後記

45 号をお届けします。今回は引き続き研究所所長  
として再任されました行川一郎教授に冒頭エッセ  
イをお願いしました。長い間、国際経営研究所を  
支えてくださった川崎さんが退職されるなど、昨  
年度末にはさまざまな変化がありましたが、新し  
いスタッフ、委員で、今年度も鋭意活動に励んで  
いきたいと考えておりますので、ご協力のほどを  
よろしくお願いいたします。(S)